

2023 年度 決算説明会 主な質疑応答

(2024 年 5 月 10 日開催)

<電子・先端プロダクツ>

Q1：3Q から 4Q にかけて収益が改善しているが、主要製品である球状シリカ、球状アルミナの回復の手応えは？

A1：半導体封止材として使用される球状シリカの需要は既に底を脱し、回復傾向にある。本格的な回復は 2024 年度下期以降を見込んでいる。主に xEV や半導体・電子部品の放熱材料として使用される球状アルミナは半導体封止材としても使用されるが、球状シリカよりも熱伝導率が高いため、生成 AI 向けなど高電流を必要とする用途での需要が増えている。

Q2：2024 年は欧米の xEV 需要が弱いと思うが、アセチレンブラックの需要見通しをどのように考えているか？

A2：販売比率の高い欧米 EV の伸び率が鈍化しており、又、地域によっては xEV の拡大に一服感があるが、市場拡大の大きな流れ自体は継続すると考えている。2024 年後半以降の回復を見込んでいる。

Q3：2024 年度に上市を予定しているスネクトンと TBM への期待値は？

A3：スネクトンは既に台湾などの主要な基板メーカー等に認定を進めて頂いており、2025 年度の利益に貢献できると期待している。TBM は SiC 半導体で特にメリットが出る材料であることに加え、半導体のアドバンストパッケージにおいても機能する材料であるため、今後の採用拡大を期待している。

<ライフイノベーション>

Q4：抗原迅速診断キットでは新型コロナウイルスとインフルエンザを同時に検査できるコンボキットの販売が今後の主流になると考えていたが、2024 年度のコンボキットの販売見通しが前年を下回る理由は？

A4：2023 年度は上期からインフルエンザが流行していた特殊な環境のなか、年間を通してコンボキットの販売が中心となった。一方、2024 年度はインフルエンザの流行が例年通り下期の流行に戻ると想定し、上期にコロナ単品キット、下期にコンボキットの販売が中心になると考えているため、販売が前年を下回る見通しとした。

<エラストマー・インフラソリューション>

Q5：クロロプレングムの 2024 年度の世界需要が 23 万 t と昨年度より回復する見通しだが、今年度の収支の見通しは？

A5：2023 年度は世界需要が低調に推移した他、能登半島地震の影響により稼働率が低下したことに加え、米国 DPE※でのコスト増加により、固定費単価が上昇し、在庫評価減を計上することになった。2024 年度は他社品との競争激化により販売価格の下落を見込んでいるが、需要の回復やそれに伴う在庫評価減計上額の減少により、赤字幅が縮小する見通しである。

※Denka Performance Elastomer LLC：米国クロロプレングム製造子会社

<ポートフォリオ変革>

Q6：アメリカ環境保護庁（EPA）が4月9日（現地時間）に発表した新規制は、クロロプレンゴム事業の抜本的対策の決定に影響を与えるのか？

A6：新規制は非常に厳しい内容であるのは事実だが、クロロプレンゴム事業の抜本的対策は今後の需要動向とデンカグループとして保有すべき最適生産能力を精査し、事業性にに基づき決定するのが基本であると考えている。

Q7：ポートフォリオ変革ではスチレン系事業の販売と生産体制の最適化を検討しているとのことだが、解説頂けるか？

A7：当社スチレンチェーンの川上であるスチレンモノマープラントは、最需要地である関東地区に存在しており、競争力はあると考えていることに加え、1基しかないためダウンサイジングも容易ではない。一方で川下の製品群は複数の製造ラインを保有している。いくつかの選択肢がある中で、今後の京葉地区でのナフサクラッカーの再編動向を見ながら最適な方向性を見出していきたい。

<キャッシュフロー>

Q8：2024年度の配当性向が既に96%と高く、仮にクロロプレンゴム事業の抜本的対策に伴う減損などにより配当性向が100%を超えたとしても、キャッシュアウトを伴わなければ配当を維持すると考えて良いか？

A8：クロロプレンゴム事業の抜本的対策も考慮したうえで2025年度以降のキャッシュフロー改善を見込み、配当予想を前年同額の100円とした。想定を大幅に超えることが起きない限り、2024年度はこの配当を維持する予定。

以上